

## 2022年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻
専攻主任名	野口朋隆
教務主任名	鶴岡明美

200字以内

今期の総評
<p>1年制コースおよびアーキビスト養成プログラムが始まり社会人が入学してきたため、従来とは異なる対応や制度の見直しに迫られる半年だった。特に授業は社会人に配慮して時間割通りの実施ができず平日の夕方・夜間、土曜日で行われたため、各教員に大きな負担がかかった。アーキビスト養成プログラムの評価は好評であった。一方、大学院について院生が主体的に学ぶ場であることを理解してもらう必要性を痛感した。</p> <p>2年制でもアーキビスト養成プログラムを受講する院生が増え、同プログラムへの関心が高まるとともに、専攻内での比重が高まった。</p>

改善のための方策
<ul style="list-style-type: none"><li>・社会人入試では一定度の選抜基準を厳格化することが必要。</li><li>・社会人向けに夕方・夜間・土曜日の授業となるため、スケジュール管理が難しい。このため事前に授業日程の設定および告知を早めに行っていきたい。</li><li>・指導教員が一人だけだと負担がかかりすぎるため、主査・副査による集団指導体制であることを徹底していききたい。</li><li>・大学院での教育は、中高大とは異なる点があることや、授業の受け方などをレクチャーしていききたい。</li></ul>

## 2022年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活科学研究専攻
専攻主任名	小西香苗
教務主任名	山中健太郎

200字以内

今期の総評
回答者数が6名と少ない中での平均値ではあるが、全専攻平均値より高い項目が8項目（15項目中）であり、先学期より改善がみられる。しかし、総評「総合的に判断して、本学の大学院に満足していますか」の平均値4.0と全体平均4.3よりも低い点から、今後、具体的なカリキュラム・授業内容の改善、丁寧な個別相談や親睦を図ることも検討する必要性を感じる。院生室利用については、実験系の研究を行う場合は教員の研究室と実験室にいる場合が多くほとんど利用しないので、利用している学生との間で評価が割れたと考えられる。

改善のための方策
特に「学位論文(修士・博士)の作成指導は適切に行われていますか」、「専攻での研究指導が適切になされていますか」については、回答者による評価に差があり、個別対応が必要であると感じる。また、コロナ感染症の影響で指導教員とのコミュニケーションや実験・調査などの研究が進展していないことも考えられた。今後は、学期ごとの個別面談や学年ごとのミーティングなども行い、研究指導の進捗の確認や教員・学生間での親睦なども図りたい。

200字以内

## 2022年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	心理学専攻
専攻主任名	松野 隆則
教務主任名	村山 憲男

200字以内

今期の総評
<p>当専攻への満足度は、概ね良好であった。</p> <p>ただし、「研究室の諸活動や学会などへの参加」に関する項目が、これまでのアンケートと同様、最も低い値であった。専攻内で可能な工夫は積極的に行い、後期のアンケートでの改善を目指す。しかし一方で、専攻内だけでは、予算的にも制度的にも限界があることも感じている。</p> <p>また、自由記述では、シラバスに記載されていない学期末課題に対する不満が散見された。</p>

200字以内

改善のための方策
<p>「研究室の諸活動や学会などへの参加」について、我が国における心理学研究の中心的な学会である日本心理学会や、臨床心理士資格との関連の深い日本心理臨床学会を中心に、当専攻全院生に学会入会を積極的に推奨する。また、学会の年次大会についても、参加をできるだけ勧めて行きたい。</p> <p>シラバスに記載されていない学期末課題への不満は、専攻内で情報共有し、後期の授業や次年度のシラバス作成に生かす。</p>

## 2022年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻【1年制】
専攻主任名	粕谷 美砂子
教務主任名	高橋 学

200字以内

今期の総評
本専攻内に社会人向け1年制コースが開設され、2年目である。1年制コース初年度に比べ、昨年度のFDアンケートを受けかなり改善が図られたものの、社会人院生からは、開設授業科目数、開講時間、授業内容、院生室のWi-Fi環境、図書館の開館日及び時間、UP SHOWAの利用の煩雑さ等多岐にわたる問題点が指摘されている。一方で専攻での研究指導が適切になされているか、総合的な本学の大学院への満足度に関する評価は高かった。

200字以内

改善のための方策
社会人1年制コースは、次年度から専門職大学院に移行することから、開設授業科目数、開講日及び時間（平日6・7限、土曜日開講の要望）これまでの両コース間の連携等については一定程度改善する予定である。加えて集中講義の要望もあるため、検討したい。院生室のWi-Fi環境、図書館の開館日及び時間、冷房等については、関連部署にも協力を依頼のうえ、2年制院生も含めた社会人院生の学びの環境を整備できるよう改善に努める。

## 2022年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻【2年制】
専攻主任名	粕谷 美砂子
教務主任名	高橋 学

200字以内

今期の総評
本専攻内に社会人向け1年制コースが開設され、2年目である。大学院の課程に所属して専門的な力がついたという回答率も高い結果であることから、2年制の院生にも履修科目選択の幅は広がり、期待に沿った学びの場は提供できたようである。ただし、コピー機・パソコン・プリンターの設備、院生室の利用等については、専攻平均より低い結果であったため、活用状況を確認し、改善点を検討する。

200字以内

改善のための方策
上述、コピー機・パソコン・プリンターなどの設置については、コピー機も学内で利用可能であり、パソコン・プリンターは院生研究室に設置している。院生研究室が役立っているかどうかの問いについては若干低い回答結果であったため、周知不足であると思われる。ガイダンス及び指導教員を通して周知し、改善を図る。

2022年 9月 13日

2022年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	環境デザイン研究専攻
専攻主任名	下村 久美子
教務主任名	番場 美恵子

今期の総評

おおむね平均以上の評価をしている。特に総合評価については、昨年度後期は低い評価であったが、今期は高い評価であった。コピー機、パソコン、プリンターなどの設備関連、研究テーマの進捗状況については個人差があるため、比較的低い数値であった。

200字以内

200字以内

改善のための方策

比較的低い評価であった設備や研究の進捗状況については、院生に話を聞くことで、状況を把握し改善につなげたい。

## 2022年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	人間教育学専攻
専攻主任名	石井正子
教務主任名	中村徳子

200字以内

今期の総評
100%の回答率には届かなかったが、9名中8名が回答してくれた。集計結果もほぼすべての質問において平均値を上回ったのは良かったが、質問4の「自分の研究テーマから見て授業内容は役立っていますか」だけが平均に届かなかった点については、カリキュラム内容を含めて今後検討していく必要がある。また履修指導についての要望もあったので後期からは改善していく。相変わらず研究室の環境に対する不満があるので、研究がしやすい環境が提供できるよう善処する。

200字以内

改善のための方策
研究テーマに役立つ授業や院生のニーズにあった大学院科目を少しでも多く提供できるよう、カリキュラム編成を検討していきたい。履修指導に関しては、とくに留学生や社会人入学の院生に対して丁寧におこなうことを心掛け、履修科目のみならず、アップ昭和の使い方なども含めて指導をおこなう。また研究室の学習環境については、プリンターの不具合が指摘されているので、来年度の予算に計上し、院生がストレスなく研究に打ち込めるよう改善したい。

## 2022年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活機構学専攻
専攻主任名	高尾 哲也
教務主任名	石井 正子

200字以内

今期の総評
回答率が低かったが、カリキュラム・授業については4以上の評価であり、博士課程の授業や研究指導には全体として問題は少ないと考えられた。

200字以内

改善のための方策
図書館・オンラインでの文献取得に困難さがあるとの回答がある事から、指導教員と連携して文献取得についての検討を行いたい。

## 2022年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	日本文学専攻
専攻主任名	胡 秀敏
教務主任名	胡 秀敏

200字以内

## 今期の総評

回答率が100%で、受講している授業内容、論文作成などの研究指導ともに高い評価を得ており、総合的な満足度も高い水準を維持している。一方、学会への参加頻度、開設授業科目数への満足度は3点台にとどまり、院生室の環境、設備の改善も喫緊の課題となっている。

## 改善のための方策

授業科目数増設への要望については、次年度から近代文学の「特殊研究」を増設する予定であり、国語学についても、カリキュラム編成方針に基づき検討を加えたい。院生室の環境、設備への要望に関しては詳細を聴き取ったうえで迅速に改善を図りたい。

## 2022年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	英米文学専攻
専攻主任名	川畑 由美
教務主任名	金子 弥生

200字以内

今期の総評
<p>今年度は学生数が複数となり、授業内での意見交換をするなど、学生間での交流が生まれたことはよかった。2年ぶりに対面で修士論文中間発表会を実施することもできた。</p> <p>アンケート結果から学生は画一的に評価している傾向がうかがわれる。また、図書館の資料、パソコンやプリンターなどの設備、院生室への要望が強かった。</p>

200字以内

改善のための方策
<p>図書館の資料等については図書館ガイダンスを利用したり、必要図書を教員が確認、図書館への購入を依頼したい。院生室は机等の入れ替え等があったため、利用しづらかったかもしれない。院生室内を見て、使用しやすくなるよう、学生と整備する必要がある。</p> <p>学会への参加については、ポイントが低かったが、秋に多くの学会が開かれるので必要に応じて参加を促していく。</p>

## 2022年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	言語教育・コミュニケーション専攻
専攻主任名	西川寿美
教務主任名	近藤 彩

1年制

200字以内

今期の総評
<p>従来の2年制の院生の評価に比べて、「カリキュラム・授業」に関する評価がやや低く、「院生」項目の自己評価がやや高いことが特徴である、回答者が4名だけであるため1人の評価が平均点に大きく影響を与えることも考慮が必要であるが、3点台の評価については注視していきたい。また、学会・研究会活動に関する評価は全員無回答で、評価できない状態であることが分かる。自由記述に見られる授業方法に関する指摘は専攻内で共有する。</p>

200字以内

改善のための方策
<p>「カリキュラム・授業」に関して評価が3点台であった項目（授業満足度、授業科目数、研究指導、図書館・設備）については、専攻内で共有し、カリキュラム、授業、情報提供における改善点を検討する。学会・研究会活動に関しては社会人院生の現状に沿った研究の在り方について専攻内で引き続き検討する。</p>

## 2022年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	言語教育・コミュニケーション専攻	2年制
専攻主任名	西川寿美	
教務主任名	近藤 彩	

200字以内

今期の総評
概ね例年通りの4点台の平均点で、特に大きな問題は予見されない。平均点が3点台にとどまっている「学会・研究会活動」、「研究テーマの進捗」は、新入生がいる前期は低めに出る傾向があるが、後期末には改善できるよう働きかけたい。

200字以内

改善のための方策
「研究テーマの進捗」に関しては1年生の特別演習が始まるため、改善が見込める。「学会・研究会活動」については教員からの働きかけが有効と考えるため、専攻全体で取り組んでいきたい。自由記述に「付与されている学内での印刷に使えるポイントが少ない」「院生室のプリンターの反応が遅い」という指摘があった。これについては情報を収集して検討したい。

## 2022年度前期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語学専攻
専攻主任名	烏谷 知子
教務主任名	鈴木 博雄

200字以内

今期の総評
回答率100% (4名回答)であった。大学院に対する総合的な満足度に対する評価(4.75)は好調であった。TA制度を高評価している院生の意見も有益である。一方、図書館購読海外ジャーナル数を増やしてほしいという意見は留意したい。加えて、コピー機等の設備に関する評価が低めである。

改善のための方策
図書館購読海外ジャーナル数を増やしてほしいという意見は1名ではあったが、研究環境整備上、貴重な意見であるので指導教員から各院生に購読が必要なジャーナルを確認する。学外の図書館等で容易に利用できるジャーナルの活用も指導したい。コピー機等の設備に関する評価が低い傾向は従来から認められるため、院生から個別に具体的な意見を聴取したい。

200字以内